



港区立南山幼稚園

Minato City, Nanzan Kindergarten

7月園だより

令和3年6月29日

June 29, 2021

園長 河合 晴美

Principal

Harumi Kawai



小さな生き物との出会いから

園長 河合 晴美

雨が上がると、子どもたちが元気に戸外へ飛び出します。そして、園庭のあちらこちらでは、小さな生き物たちも雨上がりの園庭に出てきます。子どもたちは、4月からチョウ、ダンゴムシ、クモ、テントウムシ、ヤモリなど、小さな生き物との出会いを楽しんできました。そして、最近では、「出会い」は「見付ける」という積極的な関わりに代わりました。ダンゴムシは、小学校の職員室前の花壇にたくさんいる、カタツムリは、砂場横の壁にくっついている、南山の池の石の間にトカゲが住んでいる・・・など、生き物が好む場所も分かるようになりました。子どもたちは、身近な環境の中で、好奇心や探求心をもって関わることを楽しんでいます。

3歳児は、アリを見つけることを繰り返しました。次から次へと穴から出てくるアリの動きに目を離すことなく、恐る恐るバケツに入れていきます。「どこへ行くんだろう・・・」「おうちに帰るのかな・・・」など小さな生き物との出会いで、対象となる生き物に心を寄せ、親しみを感じるようになりました。

4歳児は、小さな網をもってチョウを追いかけて、草の根をかき分けながら新たな生き物を発見することを楽しんでいます。そして、その過程で自分の思いや考えを表しています。

5歳児は、飼育物の世話を通して、どのようにしてあげたらよいのかを考えています。カメの動きを見ながら自分たちにできることをやってあげようとしています。また、飼育しているカブトムシやクワガタが大きくなっていく姿が分かり、学級の仲間と驚きや喜びを共有しています。

幼稚園ではこのように、身近な環境の中で様々なものに出会い、それらを自分の遊びや生活に取り入れながら成長していきます。そのため、より興味や親しみがもてるように、小さな生き物に関する絵本や歌、体操などを取り入れて学級の中で楽しんでいます。自然や小さな生き物に触れて遊ぶ機会が増えると、関わりの中でその形や大きさ、動きの面白さや生態の不思議さなどに心を動かされ、次第に愛着をもった生き物となり、命あるものとしていたわる大切な存在となります。

未来を生きる子どもたちにとって、自分以外の対象に対し、想像力を伴いながらいかに関わるかが問われています。小さな出会いを大切に、そして、出会えるような環境づくりに力を尽くしていきたいと思います。



<3歳児 アリとの関わり>



<4歳児 虫探し>



<5歳児 カメの世話>

